

## 島根県糖尿病療養指導士を習得して～オリジナルな活動を通して地域貢献を目指す～

◎松本 昌也<sup>1)</sup>

社会福祉法人恩賜財団 島根県済生会 江津総合病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

当院のある島根県江津市は、人口 21,962 人、高齢化率は 36.6%であり、全国平均の 28.9%を大きく上回っている。

また、糖尿病の有病率は男性が 12.0%、女性は 6.0%である。この糖尿病の有病率は、男性では島根県全体における平均 12.5%より低くなっているが、女性は島根県全体の平均である 5.5%より高くなっている。

このことから、島根県江津市の糖尿病治療への期待は高く、今後さらに増えていく高齢者への対応や他疾患との関連など、専門家である糖尿病療養指導士の育成や教育は重要であると考えられる。

### 【糖尿病療養指導士の資格習得と更新】

糖尿病療養指導士には大きく 2 種類あり、全国版の日本糖尿病療養指導士(以下 CDEJ)と各県に設置されたローカル糖尿病療養指導士(以下 LCDE)に分けられる。

CDEJ や LCDE の出願には、研修会への参加歴、実務経験年数などの条件がある。条件を満たしていれば、1～2 年程度の講習会や関連学会などに参加して必要な単位を修得していく。十分に単位数を得ることができれば、認定試験を受験することができ、合格後に CDEJ や LCDE となる。

また、CDEJ や LCDE の資格更新には、認定研修会や患者会に参加し、それぞれに決められた単位数を修得する必要がある。

### 【資格習得後の活動】

当院における LCDE の臨床検査技師としての主な活動は、血糖自己測定器変更時の各メーカーとの打ち合わせや機器検討、インシュリン導入者への血糖自己測定器の使い方説明と習得状況の評価、患者や病棟の機器メンテナンスがある。

また、当院の糖尿病患者会は、主に病院職員が運営している。糖尿病患者会の中心的な活動である外来糖尿病教室については、計画から実施、内容の反省まで病院職員が行っている。

外来糖尿病教室の内容として、病院職員がそれぞれの職種の専門性を活かした講義や実践をしたり、趣味や特技を活かしたレクリエーション(オリジナルな活動)を行ったりしている。オリジナルな活動の例として、けん玉やそば打ちなどがある。私は、けん玉の回を担

当しており、けん玉が持つ『軽い運動として活用できる』などの利点を活かし、内容を工夫しながら行っている。

これらのオリジナルな活動は講義だけの糖尿病患者会とは異なり、コミュニケーションを多くとることができるので、会の中で職員と参加者の距離が近くなっていくことを実感できる。

### 【コロナ禍での活動】

当院は常勤の糖尿病専門医が不在である。従って、コロナ禍以前より血糖自己測定器の導入が少ないため、LCDE の臨床検査技師の業務としては、コロナ禍であることの影響は少なかった。

しかし、外来糖尿病教室については、参加者がほぼ高齢者であるという地域的な問題もあり、オンラインを活用した形での開催をすることができず、対面での会も困難であるため、休止としていた。

### 【今後の展望】

今まで行ってきた臨床検査技師としての業務に、研修会などに積極的に参加することで、より知識を身に付け、根拠を持った患者対応ができるように自己研鑽をしていきたい。

さらに、私の趣味であるけん玉とも結びつけながら、当院のある江津市の方を中心として活動していき、さらに島根県全体に活動範囲を広げていき、糖尿病について正しく知り、考えてもらえるような場をつくることで、地域貢献活動も行っていきたいと考えている。

連絡先：0855-54-0101 (内線 1660)

## 肝炎医療コーディネーター ～当院での資格活用術～

◎谷口 智子<sup>1)</sup>

マツダ株式会社 マツダ病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

臨床検査技師は正確な検査結果を臨床の現場に報告するだけでなく、検査結果を分析し、その分析結果を診断・治療に活かすことが求められており、チーム医療における活躍が期待されている。2016年に世界保健機関（以下、WHO）は、2030年までにウイルス性肝炎を撲滅させると発表している。よって、その目標のためには医師のみならず、多職種の医療従事者がそれぞれの役割を最大限に発揮する必要がある。現在、厚生労働省が設立した肝炎医療コーディネーターの活躍が注目されており、その役割など解説する。

### 【肝炎医療コーディネーターについて】

肝炎医療コーディネーターは、厚生労働省が2008年に設立したもので、全ての各都道府県で育成が行われている。広島県ではひろしま肝疾患コーディネーター（以下、肝疾患 Co）と命じられている。地域や職域、あるいは病院等に配属され、肝疾患患者のみならず、一般住民に対しても情報提供、知識向上や啓発などを行い、また自身も研修会などで研鑽を積んでいる。認定者数は全国で28,434人、広島県では1,543人（2022年3月31日時点）であり、活動も活発に行われている。

### 【当院における肝炎チームについて】

当院では2019年に医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、医療クラークと多職種で構成された肝炎チームを立ち上げた。全てのスタッフは肝疾患 Co の資格を有し、月1回のミーティングを通して院内連携システムの整備、検査推進に向けた啓発活動などを行っている。

### 【活動内容】

#### 1 肝炎ウイルス陽性者の拾い上げ

2017年より、生化学部門の臨床検査技師が肝炎ウイルス検査陽性者を肝臓専門医に報告を行う拾い上げを開始した。院内で統一した対応をとるため、肝炎ウイルス陽性者拾い上げフローチャートを作成し、院内連携を強化した。フローチャートについては本編で後述するため、ぜひ参考にしていきたい。

肝臓専門医が主治医に紹介受診を呼び掛けても、1～2週間以内に受診がない場合は、看護師などが確認し、再度受診勧告を行うなど、陽性患者が放置されないよ

う徹底した。その結果、対策前には16%しかなかった紹介率は、対策後に79%へと増加し、C型肝炎では多くの患者でDAA（直接作用型抗ウイルス剤）導入が可能となった。

#### 2 肝炎ウイルス陰性結果説明

平成30年診療報酬改定で受検者の肝炎ウイルス検査結果について、認識が低いことが指摘された。厚生労働省において肝炎ウイルス検査が陰性であっても受検者に説明する必要があると勧告されている。当院では肝炎ウイルス陰性結果説明フローチャートを作成し、各科の緊急度や人員配置を踏まえながら肝疾患 Co、および看護師が医師に代わって陰性結果説明を行っている。

#### 3 肝炎週間

毎年7月28日をWHOは世界肝炎デー、厚生労働省は日本肝炎デーと定めている。当院ではその日を含む1週間を肝炎週間とし、肝炎ウイルス検査の無料実施、肝炎ウイルス検査の周知、肝臓病教室等、集中的に活動を行っている。

#### 4 院外活動

広島県が行う啓発活動や野外でのイベントにも参加し啓発活動を行っている。

### 【まとめ】

臨床検査技師は血液検査や腹部超音波検査など、様々な検査結果を早い段階で把握することができ、より早期に肝疾患への治療介入の後押しができる立場にある。よって肝疾患 Co を取得し肝炎チームに参加する意義は非常に大きい。それにより臨床検査技師の役割を高めることができ、チーム医療において欠かせない存在となり、未来ある臨床検査技師に向けて、突破できる一手段となると考える。

連絡先：082-565-5073

## 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師について

◎徳弘 慎治<sup>1)</sup>高知大学医学部附属病院 医療技術部 臨床検査部門<sup>1)</sup>

検体検査領域における精度保証業務を取り巻く環境は、平成30年(2018年)12月1日に施行された医療法等の一部を改正する法律及び医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備に関する省令を契機として、特に病院、診療所及び助産所において、検体検査の精度の確保に係る基準が設定されたことにより、当該業務へのより厳格な取り組みが求められる環境となった。

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度は、精度保障体制の確立及び維持管理を担う臨床検査技師の育成を目的として、平成26年(2014年)から実施されている制度である。

当該制度のカリキュラムは、大項目として、精度保証組織体制、国際的な標準化、臨床検査室運営管理、臨床検査室の認定・認証、測定法のバリデーション、精度保証・精度管理、許容誤差限界、検査データのチェック法、基準範囲・臨床判断値、臨床的有用性の評価、検査データの生理的変動、及び内部監査が設定されており、当該大項目には中項目及び小項目が紐づけられている。(日本臨床衛生検査技師会ホームページ「日臨技認定センター資格情報」、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度「カリキュラム第5版」(2023年6月11日最終閲覧))

当該カリキュラムが示すとおり、当該認定制度が担保する「精度」とは、狭義の精度管理業務のみを範囲とするものではなく、検体採取等の検査前プロセス、検体測定等の検査プロセス、及び検査データチェック等の検査後プロセスを網羅するものである。したがって、認定取得にあたっては、広範な内容を網羅的に学習する必要があるといえる。実際に、発表者が当該認定を取得する際に、業務経験の乏しい臨床化学領域の学習に苦慮したことを鮮明に記憶している。

発表者は現在、当該認定取得者として、「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度試験・資格・更新・研修会WG委員」を拝命し、主に指定講習会講師等を務めている。

当該認定は、中国四国支部においては60名の臨床検査技師が取得している。取得者の内訳は、鳥取県が4名、島根県が7名、岡山県が12名、広島県が6名、山口県が5名、徳島県が5名、香川県が14名、愛媛県が6名、高

知県が1名となっている。特に高知県においては、当該認定取得者が発表者1名のみとなっており、認定取得に必要な単位を取得できる「単位承認研修会」の開催等含め、認定取得を推進すべき状況にあると感じている。(日本臨床衛生検査技師会ホームページ「日臨技認定センター資格情報」、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度「認定資格者名簿」(2023年6月11日最終閲覧))

当日の発表においては、当該認定取得者としての活動について事例に基づき紹介するとともに、「単位承認研修会」の申請方法の紹介等を行いたい。あわせて、当該認定を含めた日臨技認定センター資格制度を活用することの意義等についてもディスカッションできればと考えている。

本発表が、当該認定取得者数の増加、及び各施設の品質保証活動の向上にわずかでも貢献できれば幸いである。

連絡先：088-880-2466 (ダイヤルイン)

## POCT の認定資格とその役割

◎乗船 政幸<sup>1)</sup>

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター 臨床検査科<sup>1)</sup>

POCT は point of care testing の略語であり、和名として「臨床現場即時検査」と訳される。その定義として、日本医療検査科学会（旧：日本臨床検査自動化学会）発行の POCT ガイドライン第4版では「POCT とは、被験者の傍らで医療従事者（医師や看護師等）自らが行う簡便な検査である。医療従事者が検査の必要性を決定してから、その結果によって行動するまでの時間の短縮および被験者が検査を身近に感ずるという利点を活かして、迅速かつ適切な診療・看護、疾病の予防、健康増進等に寄与し、ひいては医療の質、被験者の QOL および満足度の向上に資する検査である。」とされている。検査の範囲は規定されておらず、検体検査はもちろん、心電図や超音波等の生体・機能検査、非観血的検査（ビリルビン、SpO<sub>2</sub> 等）も定義を満たせば POCT と捉える。利用が想定される場面として、院内での日常診療のみならず、救急、在宅、災害現場など多岐にわたっている。

現在 POCT の関する認定資格は日本臨床検査同学院の認定する「POCT 測定認定士」と日本医療検査科学会の認定する「認定 POC コーディネーター（以下、認定 POCC）」の2つの制度がある。いずれの制度も POCT に関連する品質および精度の向上を目的としているが役割には違いがある。

POCT 測定認定士は、検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正が2017年6月に公布（2018年12月施行）されたことで、臨床検査室に加えて患者診療のために実施される POCT 測定に対しても法的な基準の遵守を求められることになったことを契機として、内閣府の公益事業の一環として準備が始まり、2020年2月に日本臨床検査同学院の新たな資格認定試験として承認された。2020年11月に第1回認定試験が実施され、昨年度までの3回の試験により269人が資格を取得している。POCT 測定認定士とは、ヒト由来物質を医療機関等において測定・分析するもので、適切な知識と技術をもって、安全で信頼性のある測定が実施可能と認定された者とされている。認定者の所属は病院、検査センター、検診センター、医療機器メーカーなどであり、それぞれの立場で広く活躍されている。

認定 POCC は、2002年秋に日本臨床検査自動化学会

において POC 推進委員会が立ち上げられ、2005年9月に第1回 POC セミナーが開催されたところより始まっている。POC セミナーの参加により一定の単位取得した者に対して、2007年より POCC 研修修了書を発行していたが、POCT 測定認定士と同じく医療法改正を契機として試験による認定制度に移行した。当初2020年度の試験開始予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により第1回認定試験は2021年10月に実施され、昨年度までの2回の試験により184人が資格を取得している。認定 POCC の役割として、日本医療検査科学会発行の認定 POC コーディネーターの基礎知識には「POCT 対応機器・試薬にて測定可能な項目の増加と病院への POCT 対応機器・試薬導入の増加に伴い POCT を円滑に実施していくためにポイントオブケアコーディネーターと呼ばれる役割が生まれた。POCC と呼称するのは、米国では一般的に検体検査のみを臨床検査としているが、日本では心電図や超音波などの生理機能検査も臨床検査の範疇としていることに加え、検査（testing）が目的ではなく、検査後のケア（care）までをコーディネートできる責任者であるからである。」とされており、POCT の管理者としての活躍が期待される。その役割として、①POCT の管理運営のチームリーダーとなる、②医師、看護師などの測定者への教育訓練、指導をする、③システムチェックな運用形態の構築をする、④収支、コストの管理、⑤運用実績、治療効果の評価が挙げられる。

POCT の特徴の一つとして「取り扱いが簡便」ということが挙げられるが、十分にトレーニングを受け、日常検査法との違いや結果に影響を与える要因などをしっかりと理解した上で実施しないと信頼性のある検査結果を得ることが出来ない。また測定者も臨床検査技師のみならず医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士など多職種に渡っていることから、認定者には測定者へのトレーニングを含めた啓蒙活動も期待されている。

毎年のように発生する災害、超高齢化社会における在宅医療など POCT の活躍の場は今後もますます広がってゆくものと思われる。多くの方が POCT に関する資格に興味を持ち、取得を前向きに検討していただける事を期待する。